

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Blossamジュニア北上教室		
○保護者評価実施期間	2026年1月1日		2026年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	2026年1月1日		2026年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画の質の高さと共通理解：アセスメントに基づき、こどもや保護者のニーズを客観的に分析した放課後等デイサービス計画が適切に作成されており、職員間でも支援内容が共有されています	外部機関との密な連携：学校との年間計画の共有や下校時刻の確認、送迎時の対応など、学校との情報共有や連絡調整を適切に行っています	高学年向け支援と就労意識の醸成：大きい利用者に対して、就労や将来を意識させるような具体的な取り組みをプログラムに組み込んでいくことが期待されます。
2	保護者との高い信頼関係とコミュニケーション：日頃から保護者と密に連絡を取り合い、職員が共感的な支援を行っていることで、保護者の満足度が非常に高く、こどもたちも安心感を持って通所しています	多様な刺激を与える活動プログラム：パソコンへの継続的な取り組みや、様々な場所に連れて行くことでこどもに良い刺激を与えるような工夫がなされています	地域交流の機会の創出：現状では少ない、放課後児童クラブや地域住民との交流、他のこどもたちと活動する機会を意識的に増やしていく必要があります。
3	安全管理・非常時対応体制の整備：BCP（業務継続計画）の策定や各種マニュアルの整備、避難訓練の実施などが徹底されており、こどもの安全確保に向けた体制が整っています。	チームによる支援体制：活動プログラムの立案をチームで行うなど、個々の職員に任せきりにせず、組織として支援の質を維持しようとする姿勢が見られます。	保護者・家族支援のプラットフォーム化：ペアレント・トレー

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援終了後の振り返り体制の不足：支援終了後の職員間打合せによるその日の振り返りや気付きの共有が「いいえ」と評価されており、組織的な検証が不十分な場面があります。	職員間の認識や基準のばらつき：整理整頓の基準が個人に依存しており、「朝に職員が片付ける」といった対症的な対応になっていることが、こどもの自立を妨げる要因となっています	環境の構造化とルールの統一：職員間で片付けの基準を統一し、こどもたちが視覚的に理解して自ら片付けられる仕組み（構造化）を再構築する必要があります。
2	環境整備と片付けのルールの不徹底：職員によって整理整頓の基準が異なり、こどもたちが自ら片付けられるような環境の構造化が十分になされていません	情報共有タイミングのタイムラグ：当日の振り返りが翌朝の朝礼で行われるなど、リアルタイムでの情報共有が抜けてしまうことがあり、それがヒヤリハットの共有漏れにもつながっています	連絡・共有フローの即時化：支援終了後の振り返りを定例化し、ヒヤリハットや保護者からの連絡事項を迅速に全職員へ共有できる連絡体制の強化が必要です。
3	発達段階に応じたスペースの使い分け：大部屋の利用において、高学年が優先され低学年が使用しづらい状況が生じるなど、限られたスペースの有効活用で課題があります	スペースの物理的制約とメンバー構成：利用するこどもの特性や人数によっては、現在の発達支援室等のスペースが狭く感じられる場面が生じています	年齢層に応じたプログラムの差別化：高学年の活動内容を充実させるとともに、低学年も含め全員が心地よく過ごせるような時間帯や場所の使い分けの工夫が求められます。